

平成29(2017)年度 事業報告

社会福祉法人おおつ福祉会

1. 情勢報告

2018年度は3年に一度の障害福祉サービス等報酬改定の年にあたる。この間安心して利用者支援に集中できる報酬の確立を求めてきたにもかかわらず、成果主義がさらに強化される内容となった。

複雑な報酬の仕組みで報酬改定の度に事業者も自治体担当も振り回され、直接の利用者支援よりも、報酬関係の事務に忙殺されるような制度は本末転倒であると言わざるを得ない

また、就労継続支援A型事業所の閉鎖が相次ぎ多くの利用者・支援者が仕事を失った。

利潤追求で障害福祉サービスに参入を促す仕組みは、利用者に寄り添う支援にはつながらない。

改めて、誰もがいきいきと暮らせるために、社会福祉の諸制度が作られて来たことを確認しておきたい。

重い障害を持つ人々が地域で生き生きと暮らすことが差別と排除・分断の流れを断ち切り、ひとりひとりが尊重される社会作りへの道であり、その意味でも山百合ホームの開設は大きな意味を持っている。

しかし、まだ市内には100人を超えるグループホーム入所待機の方が居られ、地域の暮らしの場づくりの運動の輪をさらに広げることが必要である。

2. 法人の重点課題の概要

① 人材確保については、雇用情勢の深刻化を踏まえ、年度途中から随時募集に切り替え、3回の採用試験を実施し、正規職員を3人、年度途中も含め契約職員を1人採用した。また、3人の契約職員が正規職員へ転換した。

福祉の職場フェア、試験毎の大学、専門学校への案内、若者応援企業宣言なども引き続き実施したが、応募者の減少から募集者数は確保できなかった。

② 新任・中堅研修については、職員のニーズに合わせた内容とし、後述のように計画的に進められた。

③ 学生実習を4事業所で、延べ66人受けとめた。社会福祉士の資格を2人が取得した。

④ J K A補助により、山百合ホームを新築した。

⑤ 北部活動センターの移転先の建物を購入し、国庫補助により改修を行い、就労移行支援を併設した多機能型事業所ふうねを開設した

⑥ 事業企画部において、第3期中期計画の策定作業を行った。

⑦ きょうされん国会請願署名9543筆(5月2日現在)を国会に提出した。憲法25条を守る全国共同集会に参加した。

⑧ 未収金について、個々のケースの事情に応じた取り組みを、大津市等の関係機関と連携をとって進めた。

⑨ 芸術活動については、事業所合同での造形活動を取り組み、合同作品展をびわこ大津館で実施した。また作品がピカットアート、勤労者美術展等に入選した。

⑩ 社会福祉法改正に伴い、役員改選を実施した。

3 組織的な課題等

法改正に伴う役員体制の変更により、常任理事会を廃止し、施設長会議に理事長も出席し、業務を執行した。

苦情委員会において、苦情として取り上げられたのは21件で、第三者委員に申し立てられたものはなかった。

現場での職員間のコミュニケーションと事業所の支援・管理体制の改善が課題であったにもかかわらず、一部職員の利用者や他の職員への威圧的な言動について、その都度組織的に対応できていないことが明らかになり、監査指摘を受け、運営改善に努めた。

4 他の組織との連携

(1) きょうされん滋賀支部へ副理事長1人、常任理事として3人を派遣し、大津ブロックとしても副ブロック長を担った。滋賀支部として県との交渉及び大津ブロックとして大津市との交渉を行った。

(2) 大津市福祉施設協議会の事務局、OSKの副会長、滋賀セルフ協の副会長等の役割を担い、活動を支えた。

(3) おおつ福祉会後援会との連携を深めた。事務局を担い、運営委員に法人役員を派遣した。地域のまつり等のイベントの参加をすすめた。後援会から法人に3,000千円の寄附を頂いた。寄附金については、山百合ホーム・ふうねの建設積立金とした。

(4) 家族会連合会との懇談会を1回開催した。家族会連合会から法人に1,000千円の寄附を頂いた。寄附金については、山百合ホーム・ふうねの建設積立金とした。

5 財政運営

(1) 資金収支計算書の当期資金収支差額が▲5,569千円であった。(うち賞与引当金に対応する法定福利費として5,299千円あり)。

(2) 予算通り、修繕積立金を積み立てた。(積立額11,000千円)

6 事業量

各事業の事業量は次のとおり

事業種別	事業所名 ()内定員	事業量		
		H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績
障害福祉サービス事業 (日中活動)	①唐崎やよい作業所(生活介護34人)	7,792人/年	8,035人/年	8,218人/年
	②社会就労センターこだま(就労継続B40人)	9,440人/年	9,093人/年	8,857人/年
	③社会就労センターあおぞら (生活介護30人) (就労継続B10人)	7,288人/年 1,648人/年	7,469人/年 1,489人/年	7,845人/年 1,404人/年
	④おおつ北部活動センター(就労継続B20人)	4,642人/年	4,819人/年	4,353人/年
	⑤おおぎの里 (生活介護15人) (就労継続15人)	2,334人/年 3,251人/年	2,962人/年 2,641人/年	2,812人/年 2,336人/年
	⑥なんぶでいセンター(生活介護13人)	1,100人/年	1,243人/年	1,210人/年
	⑦「伊香立の杜」木輝 (生活介護40人) (生活訓練10人)	8,401人/年 1,451人/年	9,974人/年 234人/年	9,952人/年 休止
グループホーム・ケアホーム	①南志賀ひまわりホーム(共同生活援助49人)	14,280人/年	15,012人/年	15,037人/年
	②伊香立の杜ケアホーム(共同生活援助30人)	9,319人/年	9,689人/年	9,550人/年
ショートステイ	①ショートステイむくの木(短期入所10人)	2,924人/年	2,613人/年	2,822人/年
	②伊香立の杜ショートステイ(短期入所10人)	3,258人/年	3,289人/年	3,589人/年
ホームヘルプ等	①おおつ福祉会ホームヘルプセンター	15,872時間	16,729時間	15,909時間
	②日中一時支援事業	1,617回	1,788回	1,187回
相談支援事業	①相談支援事業所ひびき	2,360件	3,525件	4,495件
	②大津市発達障害者相談支援センターかほん	1,898件	3,209件	3,281件

7 理事会・評議員会の開催と出席状況、監査の状況

(1) 理事会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/理事総数	出席/ 監事総数
平成29年 4月26日(水)	平野市民センター	7/7	2/2
5月30日(水)	コープ膳所	7/7	2/2
6月23日(金)	コープ膳所	7/7	1/2
9月22日(金)	社会就労センターこだま	7/7	1/2
11月1日(水)	書面議決	7/7	-
12月15日(金)	社会就労センターこだま	7/7	1/2
平成30年 3月16日(金)	社会就労センターこだま	7/7	2/2

(2) 評議員会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/ 評議員総数
平成29年 6月20日(日)	社会就労センターこだま	6/8
12月17日(日)	社会就労センターこだま	6/8
平成30年 3月25日(日)	社会就労センターこだま	7/8

(3) 監事による監査の実施状況

実施年月日	場所	担当した監事
平成29年 5月11～16日(火)	「伊香立の杜」木輝	和田監事・馬場監事

8 研究・研修部

(1) 新任・中堅研修

- 1) 新任研修 6月17日(金曜日) 於：社会就労センターこだま
「家族の願い」 今江 美芳子氏(元社会就労センターこだま利用者家族)
- 2) 新任・中堅研修 6月18日(土曜日) 於： 光荘、大津市立障害者福祉センター

午前の部

- 1) 「安全運転講習」 岡武和暁氏 (OSS岡武保険事務所)
- 2) シンポジウム 「おおつ福祉会を語る」

午後の部

- 1) 新任グループワーク
「新しい担い手となる私たちが考えたいこと」
山田 宗寛氏 (社会福祉法人小鳩会)
- 2) 中堅グループワーク 「次世代を背負う私たちが考えたいこと」

(2) 研究集会 2018年3月3日(土曜日) 於：光荘

- 1) 実践報告会 各事業所
- 2) グループワーク 4部会 (日中事業 中・軽度、重度、居宅。居住 中・軽度、重度 相談)

(3) 新任フォローアップ研修

- 1) 自閉症の” そもそも ” なハナシ 1年目の職員
「知的障害のある方中心」 コース
2018年1月11日(木曜日) 於：北大津養護学校
2018年2月9日(金曜日) 於：北大津養護学校
- 2) 自閉症支援のいろいろはハナシ 2年目の職員
- i) いろいろおな手法と、その使い方
2018年1月26日(金曜日) 於：「伊香立の杜」木輝
- ii) 分かりやすく、気持ちよく自立的に動ける ～構造化のハナシ～

2018年2月22日（木曜日） 於：「伊香立の杜」 木輝
iii) ”良い”行動を増やして、”しんどい”行動を減らす
～応用行動分析のハナシ～

2017年12月15日（金曜日） 於：「伊香立の杜」 木輝
3) 「10年後の私を見つめて」 GW 於：唐崎やよい作業所

(4) 中堅研修

1) 「自分の」実践を語る～実践で大切にしてきたこと、次世代に伝えたいこと～

i) 2017年11月15日〔水曜日〕 於：唐崎やよい作業所

対象：3～4年目 柴田雄一氏、田中美喜子氏、他谷広志氏

ii) 2017年12月13日〔水曜日〕 於：唐崎やよい作業所

対象：5～9年目 小嶋千亜希氏、柴田知恵子氏、田中浩之氏

2) 「これからのおおつ福祉会を語る」

2018年1月24日（水曜日） 10～14年の職員

2月7日（水曜日） 16年目以上

3) 「おおつ福祉会の給食について語る 於：「伊香立の杜」 木輝

2017年12月20日（水曜日） 厨房職員

(5) 救命講習・人権研修 2017年7月22日（土曜日）

i) 救命講習 於：唐崎やよい作業所、「伊香立の杜」 木輝

ii) 人権研修 於：各事業所（一部 日時変更）

(6) 研修部研修 年間日程を決めて、30～60分程度の時間で研修部スタッフの小西氏を講師として進めてきた。今年度は7回 学習会を持つ。

9 会議報告

(1) 事業企画部 開催回数11回、きのこプロジェクト 4回

① 第3期中期計画案検討

② むくの木、なんぶでいセンター移転問題 場所探し等

③きのこプロジェクト起ち上げ 行動障害の人のための住まいの検討

④ゆうやけホームの今後について

(2) 居宅会議 6回開催

年間を通して経験年数を問わず職員の参加を勧めてきたことで、世代を問わず交流の場となった。また、居宅事業所として各事業所の課題や悩みを共有することもできた。今年度は10月に発生した大きな台風の影響により、伊香立の杜ケアホームと今宿ホームが24時間ほど停電した。この事態によって食料の調達や生活の維持に困難を極めたことで、非常災害時における居宅事業所ならではの時間や場所を問わない緊急時の対応などの議論を深め、各事業所独自の緊急マニュアルの共有などを実施した。24時間365日利用者の生活を維持していくためには、居宅事業所単独での緊急時対応では限界があるため、法人としての緊急時マニュアルを作成する必要がある。継続的に議論を進め、次年度への課題としていきたい。

(3) 給食会議 開催回数 3回

①異物混入について（対策） 2017年4月25日

献立に対する嗜好性とアレルギーの対応について

嗜好調査の結果

②異物混入の対策 2017年6月21日

0-157対応

③異物混入の対策 2017年10月4日

各事業所、調味料の管理について

*第4回12月給食会議中止 1月～2月インフルエンザ等で開催できず。

(4) 広報会議

2017年度リーチ48号・49号・50号の3刊を発行した。

6月発行の48号では法人交流会の様子・おおつ北部活動センターの「虹の会」での取り組み・伊香立の杜ショートステイ新建屋の紹介など、9月発行の49号では新任紹介・きょうされん国会請願レポート・新理事長からの挨拶など、3月発行の50号では法人合同美術展・きょうされん全国大会現地レポート・第32回こだままつりの様子などをそれぞれ掲載した。また、利用者2人を毎号紹介する企画「この人にクローズアップ」を継続した。

(5) 美術会議

7回開催（うち1回は外部見学）

2017年度の活動は大きく分けて「合同絵画活動のとりくみ」「展覧会の実施」「他事業所への見学研修実施」の3つがあった。とりわけ新しい講師を迎えての「合同絵画活動」の取り組みは、お互いの技法や利用者への声のかけ方、もののみたてや出来上がった時の共感の雰囲気など参加者が誇らしく思う姿がいろいろ垣間見えて楽しめる取り組みになった。合同の展覧会も実施、来場者も前回比でかなり増え、肯定的な感想も多かった。他府県のアトリエ見学も担当者の新たな活動スタイルの見方を学ぶよい機会となった。

10 各事業所の報告

(1) 唐崎やよい作業所

1. 利用実績（定員34人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	21	23	21	21	21	21	21	22	20	20	22	254
契約者数（人）	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	38	467
利用者延出勤数（人）	702	699	739	643	641	691	705	690	728	643	620	717	8218
対定員利用率（%）	98.3	97.8	94.5	90.0	89.7	96.7	98.7	96.6	97.3	94.5	91.1	95.8	95.1

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 養護学校高等部卒業生1人と新たに契約し、契約者は39人となった。長期欠席者2人には、行事への誘いかけをおこなったり定期的におたよりを届け、1人は行事の日以外にも数回通所できた。2月に1人が亡くなり、3月の契約者数は38人となった。
- (2) 仕事（手織り・陶芸・リサイクル）、文化的活動（音楽・造形・絵画等）、身体を動かす活動（散歩・体操等）、毎週1回の定期的なレクリエーション（誕生日会、合同造形、カラオケ、グループ活動、季節行事）、一泊旅行をおこなった。各活動では、一人一人に作品棚を用意したり（陶芸）、季節に合わせた作品作りをおこなったり（造形）、嗜好に応じた行き先場所を提案する（グループ活動）等、利用者が活動に期待感を持てるよう工夫した。レクリエーションでは、法人の利用者交流会と時期が重なる「秋の小運動会」に代わり「春のおでかけ」をおこなった。
- (3) 予定していた、電気設備の一部（食堂、2階活動室、地域交流室、医務室、事務室、相談室）のLED電球対応型への変更、電話回線の変更、電話機（6台）の買い替えをおこなった。他に、

食堂手洗い場修繕、食堂引き戸の鍵修繕、2階男子トイレの引き戸修繕をおこなった。

- (4) 新たに契約を結んだ1人と研究論文対象者1人の計2人について、発達検査と検討会議をおこない、今後の支援について助言を受けた。他に予定していた3人については実施できなかったため、来年度以降におこなう。職員の研修については、各自の研修計画に基づき、1人を除く常勤職員12人が、外部研修の受講または他事業所実習を1回以上おこなった。
- (5) やよい通信を9月と3月に近隣地域へ配布した。その中で缶・古紙回収についても案内をおこなった。定期的な缶・古紙回収、物品販売、署名、こだままつりの広告・協力金について、近隣の企業、商店、学校、医院等に働きかけ、多くの協力を得ることができた。学区の社会福祉協議会の会議に理事として参加した。不定期だが、近隣地域の清掃作業（ゴミや枯葉拾い）を「地域活動」（利用者の活動）の中でおこなった。年間通して、大学・短大の「介護体験実習生」を11人、「保育士実習」を1人受け入れ、こだままつりのボランティア参加につながった人もいた。

3. 苦情・事故等

苦情0件 車両事故2件。

(2) 社会就労センターこだま

1. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	22	23	21	23	22	22	22	22	21	20	22	262
契約者数（人）	48	48	48	48	47	47	46	46	46	46	46	46	
利用者出勤日数（日）	761	778	847	761	700	746	752	713	734	684	649	732	8857
対定員利用率（％）	86.4	88.4	92.0	90.6	76.0	84.7	85.4	81.0	83.4	81.4	81.1	83.1	84.5

契約者48人でスタートしたが、残念ながら事故で1人の方が亡くなった。また1人の方が就職され、46人となった。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 働き暮らし応援センターや生活訓練事業所からの見学、実習は実施したが、29年度内の新規利用につながらなかった。長期欠席の方の自宅訪問を定期的実施した。また課題に応じてケース会議を持ち、関係機関と連携した。
- (2) 専門家による発達検査を実施し（年5回）、課題に応じてはケース会議への専門家の参加や処遇に対するアドバイスを受けた。
- (3) 便利屋を中心に地域作業を請け負うことで、社会参加や施設外の交流をもつことができた。また作業の関係を通して学会でのデモンストレーション販売を実施した。また新しい商品として天津市の観光キャラクターをパッケージにした「おおつ光ルクンクッキー」の販売を開始した。
- (4) 就労機関と連携し介護事業所へ1人就職した。また就労後のアフターケアとして、定期的なケース会議や訪問、電話相談、来所による支援を実施した。
- (5) 三重方面に一泊研修旅行を実施、スクラムの会主催行事や学習会（余暇支援の利用について）、クラブ活動で発表会の参加や他施設交流を実施した。
- (6) おおつ福祉社会合同展覧会へ出展やきょうされんカレンダーコンクール入賞による表彰式への参加をすることができた。

3. 家族・地域・団体との連携

ぜひこだまワッショイまつりを開催、地域のまつりへの参加や文化祭への出展、きょうされん国会請願の署名活動、全国大会等への参加をすることができた。また、介護体験実習や保育実習、職場体験の受け入れをし、祭り等で多くのボランティアの方に参加していただけた。

4. 苦情・事故等

苦情 0件 事故3件（内車両事故3件）、

(3) 社会就労センターあおぞら

1. 利用実績

生活介護（定員30人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	21	23	21	21	21	22	21	22	19	19	21	252
契約者数（人）	36	36	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	442
利用者出勤数（人）	671	687	737	679	629	670	681	656	681	501	585	668	7,845
対定員利用率（％）	106.7	109.3	107.0	108.0	100.0	106.7	103.3	104.3	103.3	88.0	102.7	106.3	104.0

就労継続B型（定員10人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	21	23	21	21	21	22	21	22	19	19	21	252
契約者数（人）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
利用者出勤数（人）	121	121	132	122	110	122	116	122	125	86	110	117	1,404
対定員利用率（％）	58.0	58.0	58.0	59.0	53.0	59.0	53.0	59.0	57.0	46.0	58.0	56.0	56.0

- ・1月はインフルエンザによる2日の閉所と降雪による1日の閉所があり出席数が減少。
- ・2月に居家で転倒し骨折した利用者が歩行困難となったため長期欠席となる。

2. 重点課題に関する取り組み

- (1) 生活介護事業では新規利用者1人を受け入れた。他事業所で休みがちになった利用者を6月より週1回あおぞらで受け入れることになった。また、関係機関と連携を取りながらケース会議を行い、利用者により良い支援を行うようつとめた。
- (2) 就労継続支援B型事業では主にこんにやくの製造販売を行った。また、ふうねへの移行準備として、おおつ北部活動センターでの実習やクラブ活動の参加・おおつ北部活動センター利用者によるあおぞらでのこんにやく作りの実習・自主通所の練習のサポートを実施した。
- (3) 生活介護では、陶芸・ビーズ・手織り・美術などの製作を中心とした活動、古紙・アルミ缶のリサイクルの仕事、スポーツ・体操・散歩などの体を動かすことを目的とした活動を行った。散歩やスポーツの活動では利用者の体力や障害特性を配慮して利用者構成の見直しを図り、各利用者に適した運動量を確保した。
両事業共通で季節の行事（日帰り旅行・花見・クリスマス会など）を開催し、行楽や交流に努めた。
- (4) あおぞらこまつりを行い地域との交流を行った。地域の大学生ボランティアや子供たちなどたくさんの人を迎えることができ、地域への広がりを感じられたまつりとなった。また、美術活動では法人合同作品展やing展での展示販売を行い、作品の紹介や販売に努めた。
自治会の協力を得て、たくさんの国会請願署名・募金を集めることができた。
- (5) 利用者1人の発達検査を行い、その検査結果を基にケースカンファレンスと勉強会を実施した。ダウン症のケースとして貴重な機会でもあったので他事業所からも10人ほど参加者があった。
人権学習会では虐待防止のための勉強会を実施した。

4. 苦情・事故等

苦情3件、事故4件（うち車両事故1件）

(4) おおつ北部活動センター

1. 利用実績（定員20人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---	----

開所日数(日)	22	22	22	22	22	22	22	21	22	21	21	23	258
契約者数(人)	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	234
利用者出勤日数(日)	412	385	391	382	375	376	365	357	357	276	323	354	4353
対定員利用率(%)	94.0	87.5	89.0	87.0	85.5	85.5	83.0	81.5	81.5	77.0	81.0	80.5	84.5

契約者数20人でスタートした。10月に一人就職した。11月から長期欠席1人。1月の利用率低下は、事業所内でインフルエンザが流行し、3日間の閉所となったため。

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 年額平均工賃16万円については、わずかに目標を達成することができなかった。一人平均15.4万円(交通費補助含む)

下請け作業(箱折り=福見印刷、名倉紙工)が全体の72.8%と占める割合が多かった。

(2) 一般就労を目指す取り組みは、10月に1人就労した。

(3) 利用者が主体となる取り組みとして、利用者自治会運営の支援をおこなった。一泊旅行(小豆島方面)の実施や、バーベキュー大会(北小松元気村)、おつかれ様会(彦根城と食事会)等の企画。また、学習会の企画として「性と生について」講師を招いて学習した。

(4) 職員の研修として年間研修計画を元に研修をおこなった。(人間発達講座、きょうされん研究集会等)

(5) 事業所の新規移転場所については、国庫補助申請が通り、立命館大学蓬莱セミナー跡の建物を改修し、多機能型事業所ふうねとして事業開始する運びとなった。(就労継続支援B型30人、就労移行支援事業6人)

3. 家族・地域・他団体との連携

昨年度に引き続き、次の住まいの場への展望として「体験ホーム」利用にむけて家族や本人に説明し勧めてきた。また、体験ホームを利用し一人暮らしの生活が出来るようになった。(相談事業所、ヘルプ、日中事業所等が連携を取り本人を支える)

地域では、毎年恒例の「大津市子育て総合支援センター ゆめっこ」と連携を図り、就学前の子どもを持つ家族とふれあい体験(さつまいも苗植え5月・収穫10月)を行うことが出来た。(今年で終了)

署名活動では、がんばるディで、他事業所と協力して、堅田駅前に街頭署名活動をおこなった。

4. 苦情・事故等

苦情 0件、事故 1件

(5) 障害者福祉サービス事業所おおぎの里

1. 利用実績

生活介護(定員15人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	21	23	21	21	21	21	21	22	20	20	22	254
契約者数(人)	16	16	16	16	15	16	16	16	16	16	16	16	191
利用者延出勤数(人)	219	203	256	235	221	241	243	241	238	216	236	263	2812
対定員利用率(%)	69.5	64.4	74.2	74.6	70.2	76.5	77.1	76.5	72.1	72.0	78.7	79.7	73.8

就労継続支援B型(定員15人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	21	23	21	21	21	21	21	22	20	20	22	254
契約者数(人)	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	173
利用者延出勤数(人)	234	238	225	209	183	190	187	182	162	157	177	192	2336
対定員利用率(%)	74.3	75.6	65.2	66.4	58.1	60.3	59.4	57.8	49.1	52.3	59.0	58.2	61.3

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 就労継続支援B型で新規利用者1人の受け入れを行ったが、夏には退所することになり利用の継続には至らなかった。家庭訪問及び関係機関との連携を図り、利用者の状況把握を継続して行った。
- (2) 就労継続支援B型では、スポーツセンター等のメンテナンスを取り入れ、作業の充実を図った。ATMの清掃作業は2017年度に実施出来なかったため、来年度に引き継いでいく。下請け作業については、箱折りの受注量を増やし、取り組むことが出来た。
- (3) 生活介護は、個別のニーズの課題に合わせ、活動内容の充実を図った。特に昨年度には実施出来なかった、散歩や古紙回収などの屋外での活動を充実させることが出来た。
- (4) 精神保健関連の研修に職員が参加し、学習の機会を設けた。
- (5) おおぎの里フェスタに参加し、地域との交流を図ることが出来た。

3. 苦情、事故等

苦情 2件、事故 3件

(6) なんぶでいセンター

なんぶでいセンター

1. 利用実績 (定員13人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数(日)	20	20	22	20	20	20	20	20	20	18	17	21	238
契約者数(人)	9	9	9	9	10	10	9	9	9	9	9	10	111
利用者出勤日数(日)	103	108	118	98	116	107	96	99	101	80	77	107	1210
対定員利用率(%)	39.6	41.5	41.3	37.7	44.6	41.2	36.9	38.1	38.8	34.2	34.8	39.2	39.1

契約者数9人でスタートした。年度途中で1人と契約し、合計10人となったが、9月に1人亡くなられたため、再び9人となった。年度末で1人が介護保険移行のため退所された。1人は前期は数回通所されたが継続して通所は難しく、年度末で退所の見込みとなった。

冬期に利用者職員共にインフルエンザが流行し、また台風での1日を含めて合計3日間閉所せざるをえなかった。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 移転する物件については、条件があわず、移転には至らなかった。
- (2) 高齢障害者の活動の場として、北部活動センターの利用者1人の実習を行い、契約に結びついた。午前の活動は、体操、ストレッチを行うとともに、午前はできるかぎり散歩に出かけた。また、毎朝検温と血圧測定を行い、毎月末には体重測定を行った。午後の作業は刺し子の作業を主な活動とし、水曜日はレクリエーション、金曜日は看護師による足湯、健康の話聞く時間とした。
- (3) 誤嚥性肺炎になり入院していた利用者に対して、栄養士と相談連携してペースト食の提供を行いはじめた。
- (4) 職員の研修は、きょうされんの研究集会等に参加した。

3. 家族・地域・他団体との連携

地域の自治会に加入。きょうされんの国会請願署名の依頼、こだままつりの広告および協賛金の依頼などで地域をまわり、協力をお願いした。

4. 苦情・事故等

苦情0件、事故総数0件

(7) 「伊香立の杜」木輝

1. 利用実績

生活介護（定員40人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	21	23	21	21	21	21	21	21	20	20	22	253
契約者数(人)	42	42	42	42	42	42	41	41	41	41	41	41	498
利用者延出勤数(人)	858	851	946	871	835	811	792	834	844	776	689	845	9952
対定員利用率(%)	102.1	101.3	102.8	103.7	99.4	96.6	94.3	99.3	100.5	97.0	86.1	96.0	98.3

・9月に1人亡くなり、10月からの契約者数が41人になった。2月にインフルエンザが流行したため4日間閉所した。

2. 重点課題に対する取り組み

(1)2016年度時点で生活訓練3年目を迎えていた利用者1人が、「伊香立の杜」木輝の生活介護に移行した。

(2)ウッドデッキの修理を段階的に実施する予定であったが、2017年度は実施が出来ず、破損箇所の修理に留まった。ソファについては、傷んだものと4台買い換えを行い、椅子を5脚、食堂用机を1台新たに購入した。

(3)職員の研修については、専門性を高めるため、研修計画に基づいて外部研修の参加を進めてきたが、職員全員の実施は出来なかった。

(4)納涼祭や守人の会の活動（蛍観賞会や餅つき大会など）には多くの地域の方に参加してもらうことができ、交流することが出来た。

3. 苦情・事故等

苦情 0 件、事故5件、大津保健所に連絡1件（インフルエンザ集団感染）

(8) 伊香立の杜ケアホーム

1. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用実績	815	811	827	837	791	762	758	782	801	786	737	843	9,550
平均利用人数	27.16	26.16	27.57	27.00	25.52	25.40	24.45	26.07	25.84	25.35	26.32	27.19	26.16

9月に利用者1人の死去に伴い定員30人の内、現員28人となる。今年1月に緊急(主な介護者の急な入院にともない)に受け入れたため、現員29人となる。

2. 重点課題に対する取り組み

①定期帰省の把握をする中で、職員配置を行ってきたことで、職員体制に余裕が持て、土日等の余暇支援にも取り組むことが一部出来てきた。一方で、ヘルプが充分に取れなかった事もあり、利用者によっては、平日の夕方にヘルプを利用し、余暇支援を充実していった。

②設備等整備については、予定していたソファの購入は見送り、全体的に痛みがひどくなってきた食卓用テーブルと各ホーム(3カ所)の椅子を新調した。

③毎年恒例のイベント(行事食も含む)を実施することが出来た(年6回程度)。

④伊香立の杜 ショートステイとの合同の避難訓練を実施した(2018年3月)が、職員の不慣れさという課題が見えた。

3. 家族、地域、他団体との連携

イベント(納涼祭、もちつき大会等)については、伊香立の杜全体と「守人の会」と共同で取り組みを進めてきた。また、新たに、今年度からは、伊香立の「耕楽会」に全面的に協力をし、米の購入をしてきた。

*「耕楽会」…休耕田を利用し、地域の方々と米作りを進めてきた。ここで生産された米を伊香立の杜で購入することにした。

4. 苦情・事故等

苦情 1件 事故 0件、

(9) 伊香立の杜ショートステイ

1. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計平均
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	85	83	82	83	83	86	83	84	77	80	78	88	82.7
延べ利用者数	299	308	287	298	305	304	312	314	309	285	260	308	3,589
平均利用者数	100	100	9.6	9.7	9.92	10.2	10.1	10.5	10.0	9.2	9.3	10.0	9.9
利用率(%)	83.3	83.3	80.0	80.8	82.5	85.0	84.2	87.5	83.3	76.7	77.5	83.3	82.5

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 昨年度より2人定員増(12人定員)となり、計画の平均利用人数10人にほぼ近い利用率になった。また、新棟の利用により、互いのストレスを軽減することにもなり、これまでは利用制限をかけざるを得なかった利用者也、利用回数を増やしやすくなったケースもあった。

緊急時対応については、ほぼ受け入れていくことが出来た。

(2) 年度途中での、長期のロング利用者の移行は出来なかったが、来年度4月より、移行先が決まり、ロングの利用者の問題は1人を除き、解消することが出来た。

(3) 伊香立の杜ケアホームと合同の避難訓練は2018年3月に実施する事が出来たが、職員の訓練不足という課題があった(複数回の訓練の必要性)。

(4) 例年通りのイベント食や、取り組みを、ケアホームと合同で実施することが出来た。

(5) (4)と同様、「守人の会」と連携し、伊香立の杜全体で取り組みことができ、それぞれが盛況に終わることが出来た。また、地域通信も定期的に発行することが出来た。

(6) 自立支援協議会やきょうされんの研修には一部参加することは出来たが、研修についての情報提供が十分に出来なかったため、外部研修に行けなかった職員がいた。

4. 苦情・事故等

苦情 2件、事故 0件

(10) グループホーム

利用実績 (全11ホーム、定員45人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用実績	1247	1315	1299	1313	1321	1277	1263	1238	1262	1230	1083	1189	15037
平均人数	41.6	42.4	43.3	42.4	42.6	42.6	40.7	41.3	40.7	39.7	38.7	38.4	41.2
利用率(%)	84.8%	86.6%	88.4%	86.4%	87%	86.9%	83.1%	84.2%	83.1%	81%	78.9%	78.3%	84.1%

*ゆうやけホームの実績は除く

体験型ホームとして開所している「ゆうやけホーム」の今年度の延べ利用者数は318人、開所日数は99日間であった。

2 重点課題に対する取り組みの状況

(1) 今年度、利用者2人の死亡事故があり退去となった。新たな入居者はなく、年度末時点でグループホームの空きは2室となった。

自立生活支援ホームについては今年度3人が退居し、それぞれ2年の期限を経て一人暮らし(2人)と他法人のグループホーム(1人)へ移行した。また新たに2人の入居があった。年

- 度末時点で3人分ある空きについては年度明けに2人が入居予定となっている。
- (2) 財産管理について、利用者預り金規定については継続して事務職員を配置することで徹底した管理を図ることができた。成年後見人や大津市社会福祉協議会の権利擁護事業への引継については3人の利用者を権利擁護事業へ、2人の利用者を成年後見人制度利用につなげることができた。また1人も現在、成年後見人制度利用の手続き中となっている。
 - (3) 常勤職員による月2回の職員会議、各ホーム単位のキーパー会議を月1回、および全体キーパー会議を年3回開催した。
 - (4) 65歳以上の利用者が7人となり、介護保険との併用ケースにおいては介護保険のケアマネージャーと連携して生活を支えている。また疾病により今後医療機関との連携が必要となる可能性があるケースもあり、多くのホームで体温及び血圧測定、体重測定などが引き続き必要となっている。
 - (5) 自立生活支援ホームは一人暮らしへの移行という有期限の生活の中、自立生活に向けてその都度、細かい目標設定を利用者と相談したり、ケース会議を定期的に重ねたりすることで支援を積み重ねてきた結果、2人の利用者を一人暮らしへ移行することができた。
 - (6) 余暇活動について、ホーム行事は年13回開催することができた。内容は食事会、映画鑑賞会、外出等。
 - (7) 全ホームにおいて設置義務のある小規模施設用自動火災報知設備や誘導灯など必要な消防設備の順次設置を進めた。これまで実施できていなかった各ホームの消防訓練を利用者、キーパー、職員を含めて実施した。非常災害時のマニュアルについても各ホームで避難所や避難場所などの再確認を行った。
 - (8) 老朽化したホームの移転について、建築基準法の課題があるため、行政と数回話し合いの場を持ったが、法律には従ってもらえないとして進展できなかった。
 - (9) 大津市主催の救命講習にキーパー数名が参加した。自立支援協議会主催の研修会やきょうされん滋賀支部地域生活支援部会主催キーパー学習会、サビ管研修会等に職員キーパーで参加した。年3回開催した全体キーパー会議では自閉症行動障害サポートセンター小崎氏を講師に招き、学習会を2回実施した。
 - (10) 各ホームの人員配置については断続的に体制が足りておらず、引き続きキーパーの増員を実施していく。

3 地域との関わり

地域の自治会に継続して加入した。一部のホームでびわこ一斉清掃や地域の清掃活動に利用者と一緒に参加した。一部のホームで自治会に出席した。

4 苦情・事故等

苦情5件 事故10件（うち車両事故5件）、大津保健所に連絡1件（インフルエンザ集団感染）

(1 1) ショートスティむくの木

1. 利用実績（定員10人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計/平均
開所日数	30	31	29	30	31	29	31	29	31	31	28	29	259日
実利用者数	93	101	99	103	99	103	102	103	92	89	98	101	98.6人
延べ利用者数(人)	210	234	242	231	228	210	245	229	248	247	252	246	2822人
平均利用人数	7.0	7.6	8.4	7.7	7.4	7.3	8.0	7.9	8.0	8.0	9.0	8.5	7.9/日
利用率(%)	70.0	76.0	84.0	77.0	74.0	73.0	80.0	79.0	80.0	80.0	90.0	85.0	79.0%

契約者数409人（平成30年3月末現在）

1年の平均利用人数は7.9人。新規契約者は24人。年度途中からロング利用者2人の受け入れがあり、後半に平均利用人数が上がっている。その他、毎月半月以上の利用がある人など、ロングの2人含めいずれも家庭の深刻な事情が理由となっている。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 中軽度の方を中心に利用があり、目標の8人にほぼ到達した。
- (2) 緊急利用やロング利用などは関係機関と連携して利用者のニーズに対応できるよう支援を行った。
- (3) 移転先は見つからなかったが、自立支援協議会ははじめ様々な団体にショートステイの重要性について働きかけを行った。環境整備については、建物内の補修や庭木の伐採、壊れた家電の購入など必要に応じてその都度実施した。
- (4) 職員間の情報共有については、キーパー含めた全員にまで情報が行き届いていないなど交代勤務の難しさがあった。職員研修は法人内研修の他、ショートステイ連絡会施設見学（全員）、「住まい」を考えるシンポジウム（全員）、自立支援協議会主催の防災研修（1人）等に参加した。
- (5) 自治会への参加を継続。通信地域版は発行できなかった。

3. 苦情・事故

苦情 2件、事故 0件

(12) おおつ福祉会ホームヘルプセンター・ロコ・きたくぶ(日中一時支援事業)

1. 実績報告

ホームヘルプ実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
依頼件数	733	739	754	754	730	771	787	726	743	662	675	739	8,813
実施件数	605	645	642	677	603	647	613	584	590	550	547	592	7,295
お断り	65	54	52	51	99	64	107	91	98	73	66	104	924
キャンセル	63	40	60	26	28	60	67	51	55	39	62	43	594
利用人数	157	151	156	166	152	153	153	154	157	152	152	155	1,858
支援時間	1,341	1,425	1,364	1,523	1,416	1,348	1,249	1,281	1,251	1,211	1,218	1,285	15,909

1か月の平均では、依頼件数734件・実施件数607件・断り件数77件・キャンセル件数49件・利用人数155人・利用時間数1326時間となった。

依頼件数に対して断らなければならなかった割合は、昨年度6.9%であったのに対して今年度10.5%で、3.6ポイントほどお断り率が増えている。利用者数は年間の延べ人数はあまり変わらなかったが、利用時間数は昨年度より約830時間ほど減っている。人員と車両の整備ができなかったことが大きく影響している。

日中一時支援実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	24	24	26	25	23	24	25	24	24	24	23	26	292
実際の利用人数	112	114	125	121	101	101	73	76	76	94	87	107	1187
平均利用者数	4.7	4.8	4.8	4.8	4.4	4.2	2.9	3.2	3.2	3.9	3.8	4.1	4.1

※利用人数、一日平均利用者数はきたくぶと伊香立ロコの合算

今年度は、堅田で事業運営していた子どもサークルロコを閉所し、きたくぶと伊香立ロコの二カ所での事業運営となった。年間の利用人数は1,187人で、一日平均利用者は4.1人となった。大津市北部地域の放課後等児童デイサービスの普及により、日中一時支援の利用希望者は年々減っている。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 今年度は、常勤職員がマイナス2人のスタートとなった。また、年度途中での異動や新規職員採用など、人員体制がなかなか安定しなかった。

年間の利用時間の目標が19,500時間であったのに対して、実績は15,909時間であった。身体介

護の時間は、目標が11,900時間であったのに対して、実績は9,615時間、移動支援の時間は、目標が7,600時間であったのに対して、実績は6,294時間となった。

- (2) 今年度は、子どもサークルロコの閉所に伴い、伊香立ショートステイの場所で伊香立ロコを開所し、これまでロコを利用していた方の利用を保障できるように、送迎体制なども含め、きたくぶと伊香立ロコで受け入れた。日中一時支援の年間事業量の目標を1,150人としていたが、実績は1,187回と目標を上回ることができた。1か月あたりの平均は98.9人(目標95人)1日あたりの平均は4.1人(目標4人)で、目標を上回ることができた。
- (3) 公用車に関しては、今年度故障、老朽化で日本財団助成車2台(ライフ、セレナ)を廃車、他1台(デミオ)を廃車、新車を2台購入した。
- (3) 年間を通して自立支援協議会や社会福祉協議会主催の研修に参加したり、平成29年7月には大津市権利擁護サポートセンターより講師を招き虐待防止を目的とした学習会を実施した。
- (4) 登録ヘルパーの人員は、年平均の21人で、登録ヘルパーが実施したヘルプ時間数は約9,600時間となっている。
- (5) 年間48回・30人のケース会議に出席、それぞれのケースで関係機関と緊密にやりとりをし、本人理解を深めた上で支援にあたるよう心がけた。
また、自立支援協議会主催の『大津市ヘルプ事業所協議会』『放課後等支援部会』『北部ネットワーク協議会』などに職員が参加し、情報交換や地域の課題の認識を深めた。
- (6) 現在、大津市ヘルプ事業所協議会と連携して防災マニュアルの作成を進めている。
防災学習として、自立支援協議会主催の防災研修(平成30年2月実施)に職員全員参加し、防災意識の向上に努めた。

3. 苦情、事故など

ヘルプ : 苦情 3件 事故 2件(どちらも車両事故)
日中一時 : 苦情 1件 事故 1件(車両事故)

(13) 相談支援事業所ひびき

1. 事業量

相談件数 4,495件

○計画相談契約者数252人。(2018年3月末現在)一般相談のみで関わっているケースもある。

○相談支援専門員の休職・育休が重なり、実動2人体制となり、計画相談数も前年よりも増えていることから、1人1人の利用者への十分なケースワークや一般相談が追いつかない状況が続いた。計画相談のみの相談については、対応できずやむを得ず事情を説明し、他の指定特定の相談支援事業所へ依頼した方も多い。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 圏外からの転入や、日中支援事業所に通えず在宅だった方が、相談に関わることで福祉サービス・生活支援に結びついたケースがあった。また、親世代の病気や急逝に対応することが増えている。
 - (2) 日中事業所とのミスマッチから、繋ぎ先(特に生活介護)がない悩ましいケースが複数あり、大津市も交えて検討を継続している。
 - (3) 家庭基盤が脆弱であるが故の家族支援や、育ちに関わる課題にどう向き合っていくかが中心課題であるケースが増えている。
 - (4) 新規グループホームへの入居者の手続き等利用に向けた支援が多くあった。
- ゆうやけホームでの体験利用の経験が、グループホームへの入居への不安の軽減につながったり、一人暮らしにスムーズに繋がった例があった。新規のグループホームの設置がみられない情勢の中、親なき後の住まいの課題は、引き続き大津市の中でも大きくなっている。

苦情・事故

苦情 0件、事故 0件

(14)大津市発達障害者相談支援センターかほん

1. 利用実績

(1) 延べ支援件数

合計	児童	成人	発達障害	知的障害	精神障害	その他
3,281	43	3,238	1,372	58	43	1,808

(2) 延べ支援人数

合計	児童	成人	発達障害	知的障害	精神障害	その他
73	2	71	21	4	4	44

新規利用者の相談窓口の変更により、新規の相談者は減少したが、事業終了に伴う、相談者の混乱を防ぐため計画的により丁寧な相談が必要になった。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 平成30年3月末の事業終了に向けて、利用者の意向をふまえた上で各関係機関と引き継ぎを行ったが、一部の利用者については平成30年度に引き継ぎを持ち越すこととなった。
- (2) 大津市の委託費減少に伴い相談員2人体制として、就労移行事業所の開設準備にあたった。
- (3) 大津市の発達障害の人対象の相談事業の再編については、かほんの委託法人が変わったのみだった。
- (4) かほんの事業の評価と課題の整理を行ったが、発達障害の人対象の相談というよりも相談事業そのものの総括に近いものとなった。
- (5) 広報を1回発行した他、事業終了に向けて情報があつた都度、利用者に案内を送付した。交流会は実施しなかった。

3. 苦情・事故等

苦情2件、事故0件